第２回 HYOGO グローバル人材育成検討委員会　議事録（主な委員意見）

１．日　　時　令和６年２月１日（木）13:00～14:10
２．場　　所　県庁２号館庁議室
３．発言概要　以下の通り

【志摩委員】
○留学の支援については、これまでも高校教育課で実施しているが、その継続の部分がまずあって、それはそれでありがたい。今も活用している生徒が多くいる。
○本校は SSH の指定を受けている。国からは「指定期間が終われば自走できるように、計画を進める」ように言われているが、自走するにしても予算がなければ難しい。
兵庫県の中には、SSH の指定が 4 期目、5 期目の学校があり、SSH の指定が終了すると、「さあ自校で何をしようか」という問題も発生する。そうした学校も含めて支援していただけると非常にありがたい。

【山口委員長】
○特別な事業を実施している学校が多いので、どうしても予算が切れるとそこで終わってしまう。国の投資を資本金にして、何か形を作り、次はお金がかからない、或いはリフォームして活用していくという感じにしなければ、お金がないとどうにもならない状態に陥ってしまう。頭金を使って自走型を作るという視点で、指導・協議を進めていくことが重要だと感じた。
○秋田の公立大学の国際教養大学ではネーミングライツを導入している。兵庫県の企業も名を連ねてるが、そのホールの運営資金は全てその企業が負担していると聞いている。
秋田の公立大学と兵庫県の企業の間で実現できているのであれば、兵庫県の高校でも導入できるはず。

【井上委員】
○ホップ―ステップ―ジャンプと進めていくというのはとても素晴らしい。
グローバルリーダーと打ち出す限りは、ある程度の語学力が必要になり、それが英語力だと考えている。
○先日初めて教育アプリをいくつか試してみたが、最近のものはよくできている。
こうした取組は非常に喜ばしい。
CEFR：C1・C2 より手前の段階の語学力を高めるということだが、グローバルリーダー育成であれば、SSH 等の研究成果を英語で発表するという C1・C2 レベルを目指す生徒も多く存在する。現状で高いものをさらに高くしていこうとする学校にも幅広く支援をしていただき、ぜひこうしたアプリを使わせて貰いたい。
○SSH、WWLC（ﾜｰﾙﾄﾞ・ﾜｲﾄﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ・ｺﾝｿｰｼｱﾑ）並みのグローバルリーダーとなる人材を育成する高校を県が指定することは素晴らしいと思う。SSH は現在も続いており、県版 SSH というのはわかりやすい表現だが、SGH（ｽｰﾊﾟｰｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾊｲｽｸｰﾙ）や WWLC のようにグローバル系の取組にも波及していけば、そうした取組を行う学校としても喜ばしいと思う。
○ジャンプの部分について、県のアンバサダーとして活動するという要素もすばらしい取

組だと思う。留学から帰って来た生徒は瞳の輝きや、その後の人生の輝きがまったく違う。豊田佐吉氏は「そこの障子を開けてみよ、外は広いぞ」とおっしゃった。その言葉を兵庫県にも当てはめて、生徒に外の世界を見てもらうことが、兵庫県の素晴らしい人材育成につながる取組だと考える。

○SDGs とリンクした活動を行っている学校が非常に多い。人権や環境など SDGs 自体、分野が多岐にわたっている。STEAM 教育や STEM 教育と呼ばれるが、文理横断型で理系のものも取り入れつつ、文系の探究活動を行っていくということが考えられる。

○本校では、岩津ねぎなどの県内の特産品を、国内だけでなく世界に売り出していくにはどうすればよいかを研究して、県立大学の留学生と一緒に発表するなどしている。兵庫県内の資源や興味深い場所などを、留学生の母国で紹介したところ、大きな反響があったと聞いている。

○文理融合教育、STEAM 教育というのが 1 つのポイントになってくる。SDGs 等と絡めながら探究を進めていくことは兵庫県にとってもメリットとなり得る。

【伊庭委員】

○アプリを活用した授業の実践研究に関連してだが、Chat-GPT を始めとした AI が利用しやすくなっている。研修やそうしたものに触れる機会を教員に提供することでそれらをうまく活用できれば、より少ない資金で、さらに面白いものができる。

○私は外国語メディア教育学会に所属しているが、2023 年のテーマはアプリケーションや AI を外国語教育にいかにして活用していくかの一色だった。Chat-GPT ができてまだ日が浅いが、これだけ活用されている状況にあるので、そういった部分の運用も必要かと思う。

○留学支援の資金を企業にお願いするのは良いことだが、クラウドファンディングなどで個人からの寄付も考えてはいかがか。

【井上委員】

○前もって事前にシチュエーションを設定する必要はあるが、AI の応答は、生身の人間と変わらないような会話が成り立つレベルに達している。生身の人間と会話するのも非常に重要だが、コストも掛かるので、普段のトレーニングは AI で行い、そうしたツールを活用して学習し、武者修行で実際の海外の方を相手にするというのは非常によくできたプログラムと言える。

【海保委員】

○高校生チャレンジ留学は、大変ありがたい計画である。
それぞれの学校の教育活動を損なわない範囲で実施できる留学という点で、夏休みを利用した短期留学は非常に効果的で、そこに対して将来的には 100 人も支援していただけるのなら心強い。

○ホップ-ステップ-ジャンプという位置付けは、計画としてはわかるが、学習者の視点に立った場合のホップ-ステップというのは並行して進めていく作業である。
英語力をつけること自体がなかなか大変で、全国で英語教諭教員が授業内容を改善しな

がら努力しているが、なかなか到達できない。
本校の場合だと、理系能力に秀でた生徒が集まっており、自主的に探究活動に取り組んでいて、世界レベルのコンテストで賞を取る生徒もいるが、いざ海外大学に進学しようとすると、TOEFLiBT や IELTS のスコアが足りない。

○一番効果的なのは、東京都がやっているように、高校入試で英語による発表能力をテストするということをアピールすることだが、普通の自治体は技術的・資金的な困難があって実現できない。なかなか大変だが、私学の中には、英検のスコアを加点するという入学者選抜を行うところもある。大阪府は、公立入試でも相当大胆にそうした手法を導入している。例えば英検準１級を持っていれば英語はかなり高得点の扱いになる。
入試そのものにおいて、スピーキング能力を測定するのは難しいにしても、せめて民間の検定などのスコアを取り入れ、入試でもスピーキング能力を重視するということを中学生に示すというのは非常に効果的だと考える。

【井上委員】

○英検の受験料は非常に高額となっている。中学生で１万円ほどの受験料はそれなりのハードルになってしまうので、あくまで一つの要素として捉えるべきである。

【山口委員長】

○高校入試でスピーキング能力の測定は難しい。事前に練習できれば、あまり評価の対象とはできないかもしれないが、事前に録音したものを評価するという方法もあると思う。

【海保委員】

○関東圏の私学は海外大学への留学を目標としているところも多い。アプリではなくて外国人教員が TOEFLiBT や IELTS 対策の放課後補修補習を行っている学校もある。

【塩出委員】

○公用語が英語である会社で生活している中で、基礎的な英語の学力が一定必要だと思っているが、一方で、英語力が高いからといって必ずしもしゃべれるわけではない。

○我々はグローバルコミュニケーションと呼んでいるが、わからない時にそれを確認するであるとか、そういった基礎的なスキルを身につけることが非常に重要かと思う。
そういう部分に対しては、実践的に外国人と会話することの方が重要であるし、そういうことをしなければならないという意識づけもより深いものになる。

○ステップの部分にも関連してくるが、例えば留学前に交流できる海外校を見つけて、日々のオンラインコミュニケーションから始めていくのも１つの練習の仕方として考えられる。入社時には英語が流暢でなくとも、そうした機会に触れていく中で、あっという間にある程度のコミュニケーションがとれるようになるというのは、我々も体験している。

○企業基金については地域社会貢献という要素もあるだろうが、企業の視点から見ると、企業側のメリットが明確に見えるかどうかという部分で、おそらく金額の部分でも大きな差が出てくる。

○「トビタテ！留学 JAPAN」も基本的には官民で基金を設立し、そこからお金が流れる仕組

みだと理解しているが、そこに寄付をする大きな理由としては、留学から帰ってきた後のアルムナイ（OBOG）のネットワークが非常に強いということが挙げられる。
世代を超えて継続して連携を続けられる、互いを高め続けられる関係性が築けているということは採用する側にとって非常に魅力的に映る。

○還元の部分で、兵庫県のリーダーシップのもと、留学した生徒たちをつないで、アルムナイのグループとしてのネットワークを長く継続できるかという部分に期待したい。

○主に英語を対象とした留学や語学力のブラッシュアップの話が出てきたが、グローバル人材ということであれば、英語だけではなく、スペイン語や中国語など他の言語があっても良いと思う。高校生のチャレンジ留学に関しては、英語圏以外のところに行きたいという高校生にも機会を提供してもらいたい。

【伊庭委員】

○英語以外の言語を増やすということは非常にコストが掛かるので難しいと思うが、英語以外の言語に触れるという経験も非常に重要である。もし希望する高校生がいれば、その生徒の望みが叶うような仕組みを作っていただきたい。

○COIL（Collaborative Online International Learning）という考えがある。BYOD で進めるのであれば、例えば協定校と直に繋いで英語でオンライン授業を行うということも取り入れてはどうか。時差の問題もあり手間はかかるが、やる価値はある。

○HYOGO 高校生海外武者修行プロジェクトはすばらしい取り組みだと思う。最初は一人 50 万円を 10 人に支給で、やがて 100 人に支給とのことだが、それは具体的には何年くらい先を考えておられるのか。

【山口委員長】

○留学支援 50 万円を 10 人というとインパクトに欠けると思う。100 人を支援するのであれば、基金は 10 億円程度になるのか。運用益が高い時で 5%とすると、10 億円程度集まると目標に達する。集めるのは大変だと思うが、兵庫県がグローバル教育に取り組む以上、そのぐらいのインパクトを感じられるような形で進めていただきたい。
寄付の募集についても、ぜひ 100 人という目標に向けて取り組んでいただきたい。

○県立大学でグローバル企業の役員の方に来ていただいて、グローバルコミュニケーションについて説明頂いた。学生には流暢に喋ることではなく、会話の目的は何か、何を伝えなければならないかということを意識してもらう。普段のコミュニケーションでは曖昧にしか考えていないが、要点をしっかり話すことによって、英語力はそれ程なくても、コミュニケーション能力は大きく改善する。

【塩出委員】

○同窓会的な交流の中で、グローバルビジネスパーソンとしてのスキルとは何かを早いうちから見つけてもらえれば、留学生・企業の双方にとってのメリットが生まれる。